抱ぃ 若ゥ 雄ゥ 津ゥ i 擁ё き 大ゥ 軽ゥ か 情; 想፥ れ 懐ぇ 想፥ も て今野心培ふ は ひを北る 海み 北溟の の 渦き 手と 潮 一に馳は 自然に わ け 配する Ć

0 月灰の 野路逍遙ひゆ か に浮ぶ Ú

十の群は声なく去りぬい。場添ひの野路逍遙ひゆ

始し狩り 0 の 0 うき朝 割 大も平森り野 朗こ 声え の熟睡を破る 静寂に に は 緑が夏な かも小暗し おいます 徹ま ŋ れて

力 ハシヤ Ó 白は 花な 散ち り敷く タッ ベ

ば 我が行くできればいる。 無む 飄なり に こうひ マ の風声ない なる の静寂で 、孤影よ霜! 利く 虚 <u>呼</u>空を截りて 林ル に た満て に凍りぬ に沈潜

山ぱんれい 白るがね あ あ 壮麗い 奥ぶの 六華荘 に我が胸戦傈ふ ζ 0) 彷徨が 樹水 厳な れ に 小の森よ 行けば 咲き Ź

潮ぉ

Ó

は

6

豊の穣り 北き 溟た ポ プ /ラの高梢/ の 秋き  $\sigma$ 讃ん 歌か でを 奏 で

Ŧi.

0) 歓きで の が 蒼穹紺碧 日我が胸は さやかに揺 帰懐に 充溢 に透 ぐ

大陸な がる荒鷲想へ! ば

意<sup>い</sup>い 気<sup>\*</sup> ざ 寮\* 先んじん 雄らしん 全ぜんし いざ寮友 え 血 <sub>ち</sub> 飛かった。 Ó 0 湧きて若き熱血液 れ 犠に絢ゆ 戦な 及どちよ永久は報性の火柱廻ぬ 夢ぁ に 塵が で硝煙昏冥し の三年 残さ 東語 ĥ 重ぁ を閉と . る . 原も たに謳っ 契 シ り りて 浴林 鎖ぎ 歌た Ë

ŋ

み

階堂 橋 孝 寛 君 君 作 作

曲 歌